

「としまの記憶」をつなぐ会 設立趣旨書

人は皆、記憶とともに生きている。「生まれた家、育った地域、働いた街・・・、暮らしの様子、そこにいた人達、そこでの出来事・・・」。もし、その記憶を取り出して自由に共有することができれば、時と所を越えた共感が可能となり、人と人の豊かなコミュニケーションの基盤ができるであろう。この会は地域を豊島区に限定して、人々の記憶を映像と語りで記録して集積し、アーカイブ「としまの記憶」を作ろうと意図するものである。

＜活動の意義＞ 戦後一貫して増加・拡大した人口や経済活動は漸く停滞し、従来とは別の社会の有り様が求められている。地域社会においても、①地域の固有性、独自性を把握し、②世代を繋ぐ地域の共感を踏まえ、③各人の生き方、働き方、人間関係などの問い直しを基に、④世代を超える地域のパートナーシップやネットワークを生み育てていくことが求められている。「としまの記憶」アーカイブは、このような次の時代を開く活動の一つであり、またそのための共通の認識を形成するのに役立つ活動と位置づけることができる。

＜その立脚点＞「としまの記憶」とは、①60歳以上の人に聞く“かつてのとしま”、②近年の“記録しておきたいとしま”、③未来に記憶する“今のとしまの発見”などが上げられるが、また個人の記憶、集団の記憶や地域の記憶といったものも含めて、人の記憶をベースに動画を撮影・編集し、集合の知としての集積を作ろうとするものである。

今後の動画アーカイブの形成にあたり、豊島区の地域性への配慮と進歩するwebの利用の2点を方法の支えとする。

豊島区域は、大都市江戸の北西の周縁部にあたり、明治末には鉄道が引かれて次第に都市化していき、都心部が壊滅状態になった関東大震災の後に人口は爆発的に増え、区域全体も市街化していった。戦後に鉄道の要となった池袋は、今ではJR4線、私鉄2線、地下鉄3線の集まる一大ターミナルとなり、「副都心池袋」として成長し人々を集めている。このような経緯を持つ区域は、俯瞰すると低平な武蔵野丘陵で東部・西部・南部・北部と中央部（池袋）に大別することができるが、各町単位で見ると小さな谷が入り込み、その地形や歴史の細部を見ると変化に富んでいる。

コンピュータを含む電子機器の発展は画像・音声の利用を、インターネットの普及は情報検索・取得・相互のコミュニケーションを容易にした。これにより、情報を記録・蓄積する方法は「文字－書籍－図書館」から「映像－動画－web上のアーカイブ」に広く展開し、方法と機会をより広めている。この状況を利点として捉え、広く活用したい。

＜活動の経緯＞ 2010年7月に構想と準備がはじまり、翌年7月動画の作成を試行、9月には＜「としまの記憶」をつなぐ会＞（区民活動センター登録・任意団体）を設立し、10月以降には動画の上映と懇談の交流会を月例とし、またイベントとして2012年2月には地域のNPO団体を中心とする「見本市」に参加し、あわせて「豊島・映像・発見」をキーワードに映像コンテスト第1回の審査・表彰を実施した。動画は70タイトルを越し、夏には独自の発表イベント実施を予定する。

＜活動の目標＞アーカイブ『としまの記憶』は「1万タイトルの動画百科事典」を目指し、並行してその社会的利用の促進を計る。また、その活動のために財政的、経済的な基盤を形成し、維持することを目指す。

さらに、動画の制作と充実という基本目標に加えて、具体的な活動には以下の2点を重点的な当初目標とする。

基礎条件の整備として、動画をアップするウェブ環境とそれを保証するバックアップ能力の保持、アーカイブを常時利用できる状態に維持すること、コンテンツとしての動画が「面白さと史料性」に

ついて一定のレベルを保つこと、動画の検索・整理の両面から使いやすい状態に設計し維持することを目標とする。

社会に対する活動として、まずは地域での世代間の交流をテーマとして取り上げつつ、区内の大学その他教育機関、文化機関、行政機関、企業、あるいはNPO団体とネットワークの構築と維持を進め、それを通して世代・地域・職業などを越える交流をもって会の活動をPRし、記憶の収集、動画の作成への協力とアーカイブの利用の拡大を計る。

以上のように、任意団体としての活動の経験を経て、地域の記憶をより広く集め、その利用を図っていくことを確実に推進していくために、特定非営利活動法人としての活動を期するものである。

平成24年3月17日

代表者住所
設立代表者

東京都豊島区高松3丁目8番8号
山田智稔 (印)